

議事録

会議の名称	(番号) 1-06	令和4年度第3回墨田区廃棄物減量等推進審議会		
開催日時	令和4年11月16日(火) 13時30分から14時30分まで			
開催場所	区議会第1委員会室(区役所17階)			
出席者数	14人[委員] 萩原なつ子 見山謙一郎 伊藤林 丁官一郎 井上佳洋 富樫榮子 齋藤敬三 佐藤美帆 長津かよ子 小木曾清三 山田清子 橋本玲子 坂井ユカコ はらつとむ [事務局]すみだ清掃事務所長 すみだ清掃事務所係長3名 すみだ清掃事務所係員2名、墨田清掃工場長			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	0人
議題	廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について			
配付資料	資料 廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について (参考資料) プラスチックごみの分別			
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について 事務局から、廃プラスチック分別収集・再資源化事業のモデル実施について報告した。</p> <p>(2) プラスチックごみの分別について 小木曾委員より提供のあった「プラスチックごみの分別」に係るチラシ原案について、小木曾委員より内容の説明があった。</p> <p>【報告に対する質疑応答、意見】</p> <p>(委員) 参考資料に「リサイクル袋に入れて出す」と記載があるが、量がいっぱい入るケースやネットにできないか。</p> <p>(委員) 海外企業がバスケットゴールを作り、そこにゴミを入れるようにしたら若い人達が集まったという例がある。そういう遊び心のある工夫があってもいいかなと思う。</p> <p>(委員) 海外のデザインに投票みたいな感じでゴミを捨てていくという例もある。そういう意味でエンターテイメント要素を入れるのもよい。</p>			

- (委 員) 集積所の看板の近くにそういうものを設置できないか。
- (事 務 局) 墨田区では、コンテナとネットを置いて資源物を回収するというやり方をしている。廃プラモデル地区での回収については、例えばポテトチップスの袋などは風で飛びやすいので、集め方をこれから検討させていただく。また、道路には勝手に物を置くことができない。限定的に、ガードレールや電柱、ポストなどはよいことになっている。廃棄物については「すぐ片付ける」ということで例外的に（コンテナやネットを）使っているため、ケースを常時置いておくことは中々難しいところがある。何か工夫をさせていただければと思う。
- (委 員) モデル地区は、どの辺を予定しているのか。
- (事 務 局) 収集曜日の異なる6地区の中で、各地区2つ、3つほどの地域について、町会の了解を得て決めさせていただこうと考えている。具体的にはまだ決まっていない。
- (委 員) サーマルリサイクルのままでもいいじゃないかという意見も出てくる。
- (事 務 局) 世界の潮流としては、サーマルリサイクルはもはやリサイクルではないという認識になっている。モデル実施を行う際には、地球環境やゼロカーボンというところから説明して、ご理解を頂きたいと考えている。
- (委 員) どのくらいの汚れだったら良いとか悪いとか、客観的なものがないと分かりづらい。色見本みたいなもので分かるような感じが良い。また、「容器をさっと洗って汚れを落とす」とあるが、水で洗うとなると環境悪化の原因となる。できればティッシュや新聞などで汚れを拭き取るなどしてもらって、できる限り水を使わない方法がベターではないか。
- (事 務 局) 汚れ具合については、口で説明しても中々伝わらないと思っている。住民説明会などで、汚れ見本など実物を見せながら説明していきたいと思っている。
- (委 員) 水道の水ですすぐだけではなく、拭いている絵をいれるなど、色々な汚れを落とす方法を示せるとよい。
- (委 員) モデル地区で協力してもらってやるとなったときに、プラスチックではないものを間違えて出してしまうこともあると思う。その時に、置き去りにされてしまうと、せっかく協力しているのに悲しい思いをしてしまう。一定のノウハウが蓄積されるまでの間は回収してもらって、何を間違えて出しているかを分析してもらいたい。
- (事 務 局) 残すというやり方もあるし、回収して、どういう傾向のものが皆さん迷っているかを分析しながら情報を公開していくという形もある。モデル実施の際には丁寧に対応させていただきたい。
- (委 員) 製造業者に訴える形の方が、こういうこと（プラスチック削減）は早く進むと思う。
- (事 務 局) 今回の廃プラスチックの資源化というのは、世界的な動きであり、そ

もそもプラスチックを使用しないとか、プラスチックの含有量を減らすという取組みを国も求めている。墨田区としても、事業者に対してそういう働きかけをしていく必要があると考えている。

(委 員) これは (S D G s の) 目標 1 2、つくる責任つかう責任のところの話になるので、当然のことながら作る側の意識を大きく変えていく必要がある。そのためにはやはり消費者の意識、行動変革が重要であり、生産者を変える、ところまでいけるような運動にしていきたい。

(委 員) 事業者が詰め替え容器を回収しているが、綺麗にしないで汚れたままで回収しているところもある。そういう仕組みも参考にできないか。

(事 務 局) 汚れたものも回収しているというのは、おそらく単一な品物だけ回収して、企業独自のリサイクルしていることから成り立っていると考えられる。今回、区として回収するプラスチックは、チューブ類やトレイ、容器など様々なものが混在しているため、汚れたままでもよいというのは、中々難しい。

(委 員) 食品トレーは、プラスチックとして回収することになるとのことだが、現在、選別作業を障害者団体をお願いしていると思うが、その仕事がなくなってしまう。分別でなにか関わることはあるのか。

(事 務 局) まず、モデル地区については、(食品トレーを)プラスチックと一緒に回収するが、他の地区については今までどおりの回収となるので、モデル実施の際に仕事が全くなくなるというわけではない。その後については、障害者団体と区との意見交換の中で、お手伝いいただけることを区として探っていく。

(委 員) 前回、リサイクルがどういう形でされているかをちゃんと見せないといけないと話をしたが、なぜかという、それが結局普及啓発に繋がるからである。環境省に関わっているが、行政はどうやって分別回収するだとか、何をやるかという話はするが、何でやるかの説明をしない。実は普及啓発の一番の重要なポイントは、理由を知るからである。なぜやるのかという疑問に答えているからこそやりたいと思うわけで、そこをちゃんとやるには、実際にリサイクル施設に行って、資源化しているところを目で見るというのも重要になってくる。秋田県の高校で「未来に残したい風景」を写真に撮るという授業があったときにすごく綺麗な海を撮った生徒がいて、この海を未来にも残したい、だから海洋プラスチックの問題を解決しましょうというメッセージが強く印象に残った。環境省のホームページを見ると、汚い海の写真が掲載されており、「海洋プラスチック問題を防ぎましょう」とあるが、そこから綺麗な海は想像できない。どういう未来を残したいか、理想の姿を見せるというのがすごく重要なのかなと思っている。「なぜ」というところをもっともっと追求していったらいいと思う。また、区内の企業との連携を何かしないのか。自治体と組んだ(プラスチック問題の)取組を望んでいる企業もあると思う。

	<p>(委 員) 「なぜこれをやるのか」というところをちゃんと示すのはとても重要である。持続可能というのは、次世代に対して自分が享受したものを、きちっと渡すというステューワードシップ(受託責任)が非常に重要とされているので、その点をもう少ししっかりと出していくということが重要ではないかと思う。</p> <p>(委 員) あと、納豆はシャワーですすぐと汚れは落ちないが、水圧を強くして蛇口から直接水が落ちるようにすると、割と簡単に落ちる。こういった裏技的なものが他にもあると思う。</p> <p>(委 員) もう一つ次の課題になると思うが、フードロスの問題がある。色々な工夫も入れながら、審議会の皆さんの意見を聞きながら、取組んでいくというのが大事かなと思っている。また、外国の方に向けては、やはり外国の方々と一緒に作るというのが大事かなと思う。ここは全て繋がってくる話なので、墨田区の縦行政を横行政にして、教育部局や広報、国際交流部門などと連携して進めていってこれればと思っている。</p> <p>(委 員) 清掃事務所が主体となって(ごみやリサイクルの)施設見学会を実施できないか</p> <p>(事 務 局) 区民向けの施設見学というのは環境保全課で実施しているが、審議会の委員の皆さんに向けた見学会をできればと思っている。今年は廃プラスチックが中心のテーマであったが、フードロスも重要なテーマであるので、これらに関連した施設見学について、これから企画を検討させていただく。</p> <p>3 その他 事務局から、次回審議会は現在のところ未定である旨の説明があった。</p> <p>4 閉会</p>
所 管 課	都市整備部環境担当すみだ清掃事務所管理・計画調整係 (5608-6706)